指定地域密着型サービス外部評価　自己評価票

（ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人とのふれあいを大切に」ということで、地域の方々とのつながりを大切にしながら、生活を送れるよう支援できるような理念をつくりあげている。	○	入居者の意志に沿った援助をして、本当の家となるように、もっと外に出たり生活感のある場にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス等、折に触れて話し合い、案を出したり、確認したりしている。また、業務に追われ、忙しい日々の中でも、職員一人ひとりが小さなことでも、実践している。	○	理想と現状がかなりくい違っているので、実践可能な具体的案を出し、確実に取り組んでいけるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、家族会や面会時に話している。地域に対しては、積極的にはできていない。	○	地域に対して伝える機会はあるので、十分に活用していきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の散歩で挨拶を交わすことはできている。その他は、ボランティア等の訪問で交流があるのみである。	○	買い物等で外へ出る機会を増やし、徐々に近所の方と親しくなっていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や教会には、参加させてもらっている。地域の祭などには参加していない。入居の状態を考えると、地域の活動への参加は厳しい。	○	行事として、イベントに参加することはできる限り、行っている。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への支援が精一杯で地域の方への取り組みは出来ていない。	○	過去には実習生の受け入れを行っていたが、現在は休止中である。施設間の実習の受け入れはしている。パンフレット等に相談・受け入れを記載したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意味や改善点は理解している。改善に向けての検討、具体案の話、実践はできていない。	○	全職員で改善に向けての話し合いをしていきたい。外部評価の結果をサービスに活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２か月に１回会議を行い、取り組んでいる内容を報告し、意見もいただいている。	○	地域の人たちが施設のことをあまり理解していないため、理解してもらえるように見学ができる体制を作っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所としては連携、関係作りを行っているとは思う。ただ、地域密着型のサービスとしてはどうかは分からない。	○	関係づくりは積極的に行っている。意見等をしっかり聴き、サービスの向上にむすびつけている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所としては、必要なケースの場合、対応できているが、職員はほとんどの理解していない。	○	勉強会等開き全員に理解してもらう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	関わり方に問題が見られたら、その都度、職員同士で注意し合っている。また、ご家族からも、対応についての要望を聞くようにしている。	○	折に触れて、介護以前に人間として、どうあるべきかの話をしている。これからも続け、人間らしくあるための基本的なことを大切にしていきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一通り説明し、納得はしていただいており、質問にも答えている。後に発生した問題疑問にも、その都度答えている。契約に十分な時間が取れない場合、何度も連絡をとっている。	○	聞きにくい内容（状態悪化や看取り）についての話、確認を、早いうちにしっかりできるようにしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、介護相談員が来ている。小さな苦情でも周知はしているが、内容によっては流されてしまうこともある。	○	自発的に不満や意思は言ってくれているので、解決が困難なことでも、一つひとつ話し合って、少しずつでも実施していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に状態の報告をしている。状況によっては、すぐに電話で報告している。	○	全職員ができているのではないため、全員ができるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回、介護相談員が来ている。面会時には、話を聞くよう努めている。	○	ご家族からは「言いたくても言えない」という感じがあるので、言いやすい雰囲気や対策を考えて実施したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に１回カンファレンスを行い、意見交換はしている。	○	意見は出ているが、結果が曖昧なまま終わっているので、きちんと結果を出すようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化、要望に対しては、柔軟に対応できている。	○	時間を確保し、話し合いが取れるように勤務体制を作っていきたい。職員同士での話し合いで対応している。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動について話し合い、検討をしている。入居者への配慮ではなく、業務を主にしており、入居者へのダメージはある。	○	異動による入居者の寂しさ、不安は多々あるので、本当に最小限になるようにしたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、研修は受けている。機会は少なく、自主的に受けるものが多く、費用、都合により、受ける人が少ない。	○	研修、講習を、負担なく受けられる機会をつくっていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員等から、他施設の話は聞くが、相互訪問等の交流は全くない。	○	そのような機会があるのかどうかを知りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の話や苦情は聞いているが、納得のいく改善は難しく、ストレスはなかなか軽減しない。	○	各自の業務の取り組み方と意識の違いでの摩擦が多いので、全職員の意識の向上と業務の取り組み方の統一を図っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得のため、休暇等の援助は積極的に行い、スキルアップのための情報は提供している。	○	資格取得、研修実施日、内容等は、職員に周知している。積極的に自分をアピールできる雰囲気作りを行い、少しでも向上心を持って働けるような職場作りを目指したい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居から、折に触れてゆっくり話をする機会はもっている。出されたことに対して、職員に周知して、その都度対策を考え、実施している。	○	話を聞く職員が、いつも同じなので、全職員ができるようにし、広く信頼関係を作れるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居から、折に触れてゆっくり話をする機会はもっている。出されたことに対して、職員に周知して、その都度、対策を考え実施している。	○	対策に対して、全職員がしっかり行えてないこともあるので、実行に力を入れていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何か必要としているかを十分に把握し、対応している。時間をかけ、話し合いを行い、安心していただけるようにしている。	○	最初は、なかなか見極めにくいので、もっと話をして、早いうちから、適切な援助ができるようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に家族や本人の意見を聞き、その人に合ったサービスを行うようにしている。また、それ以降も意見を聞いて、無理のないようにしている。	○	他の利用者とのかかわりを大切にしている。（他者との信頼関係を築く）
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事の準備や洗濯等を行い、生活の中で助け合っている。	○	今後も、生活の中で入居者のできることを提供していきたい。

項　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば相談し、入居者のケアに協力していただいている。	○	日常的に協力をお願いしているわけではないので、より良い援助を行うために、もっと参加していただける工夫をしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時等に家族より話を聞き、少しでも良い関係が続くように、架け橋となっている。	○	気軽に遊びに来てもらえるように、行事など工夫の必要がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や人に会うのは家族の同伴、判断が必要で、直接、援助はしていない。本人からの要望があれば、家族には伝えている。	○	外出行事で、入居者の思う場所に行けるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しがちな方に対して、皆の輪に入ったり、トラブルなく関わり合えるよう、職員がさり気なく間に入り、橋渡しに努めている。	○	入居者に負担がかからないよう、今行っていることを続けていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居すれば、関わりを持つことはなく、要望もない。	○	気軽に遊びに来てもらえるように工夫する。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から要望があれば、できる限り思いに沿えるよう努めている。要望がなくても、日々よく見て思いを見つけ、少しずつ検討、実施はしている。	〇	希望の把握は、各職員が積極的に取り組んでいる。
34	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族から話を聞いている。また、職員への周知している。	〇	入居後、日ごとに忘れてしまいがちなので、その情報に、時々眼を通すことを習慣づけていきたい。
35	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや職員間で話しているが、全職員が全て把握していない。	〇	把握と再確認の機会を、積極的に設けていきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご家族、本人の要望を中心にして、職員みんなで考えている。必要に応じて、看護師や理学療法士にも意見をいただいている。	〇	意見を出してくださる家族は少なく、職員側の視点での計画になってきているので、家族の参加をもっとしていただけるようにしたい。
37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化や対応できなかった項目が生じた場合、家族と話し合うことは少なく、職員側だけの検討が多くなっている。その時の状態に応じたプランを作っている。	〇	検討する人は職員だけになってしまっているので、家族の参加、また、参加できるように努めていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、簡単な内容で状況がつかみにくい時もある。記録を見て、状態の把握や計画に活かすことはできている。	○	経過ではなくて、様子の記録になっているので、定期的に職員に周知、確認し、全職員が統一できるようにしたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性については、今のところ医療面に関してのみで、往診や医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。	○	急変時は対応を早くし、今後も継続していきたい。グループホームで、安心して生活ができるようにしていきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校の児童が、定期的に訪問に来ている。その他は、働きかけ等は行なっていない。	○	地域との関係を深めるために、何か具体的なことを考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居してからはグループホーム対応のため難しいが、家族からの要望での対応はできている。	○	散髪など、利用者の要望で実施している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っているが、現在は家族からの要望はない。	○	運営推進会議に出席してもらい、意見を参考にしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携はできており、いつでも対応できるようにしている。また、家族の意思も入居時に聞き、納得、同意は得ている。	○	かかりつけの医師を自由に選択できるようにしている。変化時、また、家族の希望時にすぐに対応できるよう連絡をしっかりとっている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の症状を理解していただけている医師に、受診できるように支援している。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に相談できる看護師がおり、連携している。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の情報提供を行い、家族に対しても安心していただけるように努力している。	○	入院中も症状を把握し、いつも対応できるようにしたい。（入院中もできる限り情報収集に努めている。）退院され、グループホームに戻られた時、家族の方に安心していただけるようにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明を行い、理解していただき、常に体の状態の把握に努め、必要に応じて対応している。	○	本当に重複化してからの話し合いが多いので、折に触れて、繰り返し、家族の思いを確認していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できる範囲のことで、その人に何が必要かを話し合い、実施するよう努めている。今後の変化への検討はできていない。	○	話し合い、計画はしても日々の業務に追われ、実行が十分できていないので、どうすれば実行できるかの話し合いをしていきたい。

	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	申し出があれば、できるだけ詳しく情報提供している。安心して住み替えができるように、生活が送れるようにしている。	○	情報の内容が医療面に偏っているので、生活歴やその人が分かるような内容もしっかり交換していきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各自、気をつけている。問題があれば、職員同士でその都度注意している。	○	言葉かけに注意をしていきたい。人としての尊厳を大切にした対応が求められていることを再確認し、職員全員周知し、実施できるように取り組みをしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人に合った声かけ、その人の仕事で意志の確認を行っている。	○	個々に合った対応はできている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りは思うように過ごしていただいているが、食事、入浴時間は希望に沿えていない。	○	入居者の中には施設側に流れを把握し、そのリズムで暮らしをされている方もいるので、できればその方のリズムでの生活の支援を行っていく。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	３か月に一度、散髪に来てくれる。また、ご本人の希望があれば、家族と美容室に行っていただいている。	○	自ら、ヘアスタイルをリクエストする方もいる。

項　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているので、各自の好みに合っているとは言えない。準備、片付けは、一緒にできている。（行う入居者はいつも同じ）	○	限られた方になっているが、できる限り、長く続けていきたい。お年寄りの好む献立、昔の食生活を提供したり、毎日同じ食器ではなく、献立に合った容器を提供していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや梅干し等、本人の好きな物を、家族に持ってきてもらっている。	○	個々に持ってきていただき、施設側で預かり、ご本人が希望された時、食べていただいている。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の状態を見て、なるべくトイレやポータブルでの排泄を行っている。	○	チェック表を活用し、（トイレ誘導時の有無の時間を記入）支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人数が多いため、希望には全く沿えていない。決まっている日に入浴できなければ、日を改めて入浴していただくようにはしている。	○	毎日入浴したいと思っている方は多いので、現状では難しいが、少しでも多く入浴していただけるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できている。落ち着かない時は関わりを持ったり、本人の望むような援助をしている。	○	常に状態の把握に努め、適切な対応ができている。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、業務が忙しく、集団レクリエーションや時々散歩に行くことしか提供できていない。	○	各自の残存能力に合わせた、個別レクリエーションをもっとケアプランに入れて、実施していきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことがないように、ご家族には話している。（トラブル防止のため）また、お金を持たれた場合は、職員側で預っている。	○	自分で買い物に出ている。本人が申し出があれば、希望に添えるようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は散歩程度で毎日ではない。その他の外出は、ご家族の付き添いで行っていただくようにしている。	○	日常的な外出は難しいので、せめて散歩の回数を、少しずつでも増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別にはできていないが、年に数回、皆で出かける機会はつくっている。	○	家族の協力で実施できている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいと言われたら、なるべくかけるようにしている。キーパーソンの希望を優先しているので、かけられない方もいる。	○	家族の了解を得ている方には、希望があれば電話をかけるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が帰られるときには、また来ていただけるように声かけしている。	○	ゆっくりとくつろげる場所作りがしたい。（現状の空間では難しいので、居心地の良い雰囲気、環境作りを目指している。）
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解していて、各自取り組んでいる。やむを得ない場合は、家族に承諾をいただいている。	○	拘束をなくす方法やそれに対する思いを各自持っているので、今後もその考えを活かしていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることが、入居者の精神面に負担をかけていることは分かっているが、安全面や元々の建物の造り上、どうにもできない。	○	見学時、契約時、入居時など、機会がある度に説明し、理解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	会話の中に体調確認を入れ、さり気なく確認したり、夜間も随時様子を見ている。	○	入居者がどのような動きをされるか、見守りしやすい場所にいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ等の刃物は持たないようにしていただいている。危険な物があれば、都度回収し、家族に話し、持って帰っていただくか、こちらで保管するようにしている。	○	職員が入居者の状況に合わせ、方法を考え、対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各職員の知識に差があり、事故防止に対する意識にも差があり、十分な取り組みはできていない。	○	マニュアルの再確認、定期的な勉強会を行う必要がある。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	知識に差が著しく見られるが、訓練等は行えていない。	○	マニュアルの再確認、定期的な勉強会を行う必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に２回、放火訓練を行い、運営推進会議で近隣の方に話している。	○	災害が実際に発生した時、どのようなことが起きるか予測できないので、不安に訴える職員が多い。今後、運営推進会議等で検討していきたい。

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては、その都度、ご家族に報告し、どう対応していくかを話し合っている。	○	転倒を気にされ、動きを制限される家族の方には、十分な説明をし、理解をしてもらっている。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各職員の意識、知識に差があり、変化の発見が遅い時がある。気付いた時には、すぐ適切な対応をしている。	○	職員の意識と知識の向上を図り、皆がいつも適切な対応ができるようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特別な薬の注意事項は理解している。入居者全員の薬の内容の把握まではできていない。	○	定期的に各入居者の薬の資料を読むようにもっと言って、徐々に把握していけるようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分は多めに摂っていただくよう努めている。便秘時は、大半、下剤に頼っていて、取り組みは特にない。	○	再度、便秘予防について話をして、日々の生活に無理なく取り入れられる対策を考え、実行したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日、夕食後に口腔ケアを行っている。自立者の口腔ケアの確認はできていない。	○	自己でできない方にハミガキ、うがいが困難な方に対しては介助支援をしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が減れば、家族に本人の好む物を持って来ていただいて、おいしく食べれる工夫をしている。水分は、無理のないように少しずつすすめるが、摂取量の増加は難しい。	○	その方に合った量を把握し、できる限り、気持ちよく食事ができるようにしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	症状に応じて居室対応したり、汚物は消毒している。	〇	全職員が、予防や対応についての知識を得られるようにしたい。
79	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に十分配慮している。乾燥機を使用し（使用後の調理器具等）冷蔵庫の中の期限切れ等のチェックを常にしている。	〇	水周りを清潔に気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花は飾っている。建物周囲は、車の数も多く、何もできていない。	〇	植木鉢等を置き、明るい環境作りを目指していきたい。
81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の造りや安全優先のため、家庭的ではないが、小物は馴染みの物を用意している。	〇	自由にテレビが見られるように心がけている。ご飯を炊くことで匂い、また、一部の方の食器を洗う音などで、少しは生活感を感じてもらっている。
82	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファーを置いて、好きなように使っていただいている。一人になりたい時は、各自の居室を使っている。	〇	座る場所が固定化し、トラブルになることがある。解決方法を検討中である。

項　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が随時、持って来てくださり、好みに合った居室になっている。	○	全員ができているわけではないので、もっとご家族に呼びかけていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに配慮している。（消臭剤等使用）不快な臭いは気分を害されることもあるので、常に換気している。（朝、起床されたときには必ず窓を開ける）	○	換気に注意を払っている。施設全体として、芳香剤などの設置を検討中である。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがついている。洗面所は車椅子が入らず、自分で使えない方もおられる。	○	身体能力の合った安全環境作りを、個々に対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗、混乱がないように早めの対応を心がけている。	○	混乱、失敗があったときは職員が話し合い、統一したケアができるようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは使えない。外周りも洗濯干し場だけで、楽しめる場はない。	○	ベランダの活用ができるように、働きかけたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

職員は、日ごろからあまり会話が難しい入居者の方であっても、顔を合わせるだけで安心感が生まれるように努力をしています。（コミュニケーションがうまく取れない方でも、日ごろからやりとりを積み重ねることによって、新しい関係ができることに期待、自信を持ってかかわる）その人の笑顔や心が和む瞬間を捉え、そこに働きかけるようにしています。私たちは、家族の方から大事な命を安心して任せられる施設といっていただけるグループホームを目指しています。